同志社大学国文学会彙報

昭和五十三年度文学会活動状況

〈総会・研究発表会〉（十一月二十三日　京都教育文化センター）

。実践報告

平家物語「宇治川先陣争い」　生井　武世（同志社香里高校教諭）

。研究報告

時代悲劇の方法　山田　和人（同志社大学大学院）

『行人』論への試み　玉井　敬之（同志社大学教授）

〈土橋寛教授退職記念講演会〉（十二月十九日　同志社大学神学館チャペル）

。講演

出雲の語部　門脇　禎二（京都府立大学教授）

黒人の愁い　土橋　寛（同志社大学教授）

昭和五十二年度卒業論文題目

〈日本文学古代前期〉

スクナヒコナの神　秦　千絵里

大国主神話の成立とその文学性　井上　摩由美

国譲り神話の考察　増田　文夫

三貴子三界分治神話について　大塚　実

アシキ児　田中　正彦

古代歌謡における久米歌　大塚　久江

久米氏と久米歌　山梨　典子

古代歌謡にみられる道行文の源流とその変遷　浅野　泉

「石川郎女」歌考　小野　恵

万葉集東歌における『労働歌』　尾崎　千春

万葉集東歌一考　龍野　一史

〈日本文学古代後期〉

竹取物語について　小林　郁子

竹取物語の創造性　沢田治子
「伊勢物語」私論　藤原泰浩
物語としての「伊勢物語」の愛とみやび　加藤義明
「伊勢物語」――「むかし、男」の挫折をめぐっての一考察　宮川恵子
伊勢物語の基調――みやびをめぐって――　須沢美智子
詩の挫折と散文の自立――古今歌から日記文学へ――　小川敏雄
『かげろふ日記』の方法――『かげろふ日記』における書き日記の意識――　木村祐二
枕草子に関する一考察　木村竜子
枕草子に書こうとしたこと――その人物描写から――　西田みさ子
枕草子の美意識　北岡三知子
「枕草子」に見る清少納言の基本的態度　鈴庄潤子
枕草子から見た清少納言の人間観　吉村享子
清少納言と中宮定子　吉村明子
清少納言の趣味についての一考察　池之子英利
源氏物語における中の品の女性　赤畠敬子
源氏物語　藤壺像考察　河内圭子
雨夜の品定め論　中森由紀子
源氏物語「六条御息所」論　丸岡好美
源氏物語の女性――紫上物語――　川端明代
源氏物語における光源氏須磨流離の意味　山本紀子
浮舟論　林京子
浮舟物語の意義――その救済への道について――　河野弘子
浮舟物語の意味――薫・横川の僧都との関係を中心に――　岩崎伸子
罪の糸譜と宿世思想　加藤増栄
源氏物語三部世界の構造　広岡曜子
源氏物語の天象叙述　鶴陽子
源氏物語の方法試論――カタリとハナシの視点から――　塩田和子
紫式部集の特質――紫式部の歌――　本多淳子

「更級日記」　宮部利美
「更級日記」考　清水敏美
「和泉式部日記」作品論　和田博美
大斎院御集攷　中周子

〈日本文学中世〉

平家物語の説話
——集団の創造力と個人の創造力——　森宏二郎
『平家物語』と説話
——傍系の人々をめぐって——　小原牧
平家物語の展開
——年代記と伝承を中心に——　今井浩一
平家物語における文覚像　山城朋子
平家物語における木曽義仲　北河良一
能の発生　堀恵美子
謡曲『小町もの』の考察　小澤育子
鬼から修羅へ
——修羅能の系譜——　吉川知代
謡曲曽我物考　吉岡玲子
御伽草子論
——庶民小説を中心として——　平野昭

〈日本文学近世〉

『好色一代男』
——描かれた女性像について——　岩田元秀
「好色五人女」の考察　小野田光子
『日本永代蔵』における質的断層考　石井佳代
「日本永代蔵」の考察　志波遵子
『世継曽我』の成立　中野勝
『曽根崎心中』観音めぐり研究史　萩原康子
『大経師昔暦』における近松の創作態度　池田妙子
「青頭巾」論　野口みどり
馬琴文学の問題　木村幸子
東海道四谷怪談　伊藤泰子
鶴屋南北の劇的世界をめぐって　番上八重子

〈日本文学近現代〉

北村透谷
——近代の相克の間で——　松下京子
樋口一葉　原和子

一葉文学の本質　西森晶子
国木田独歩―人生と問題　水本千恵
登美子の詠じた花の歌考　石田恵子
石川琢木における「家」の問題　矢口雅也
「石川琢木」論　下里裕子
長塚節の「土」の世界　山岸洋子
「由縁の女」の劇的構造
――その内的論理をめぐって――　長井康子
『行人』論　大多和進
漱石の道程
――『こころ』への道――　三好英明
夏目漱石「こころ」論　野津光代
「戦う」ことから「許す」ことへ
――「心」から「道草」――　新治純子
『道草』論の試み　浜本裕子
『道草』論
――理不尽な存在の表現――　反町弘子
芥川龍之介論　山本和美
芥川龍之介の晩年　村田史郎
宮沢賢治論
――児童文学における作家の自己主張をめぐって――　広井直子
宮沢賢治論―修羅の彷徨
――童話「ペンネンネンネンネンネン
―ネネムの伝記」をもとに――　吉野京子
堀辰雄論
――宿命的病者の世界――　西村芳和
小林秀雄　小野雅彦
中島敦　河野晴江
坂口安吾「吹雪物語」考　野中智子
坂口安吾――「ふるさと」から――　菅野安都子
太宰治の思想　長谷川博志
太宰治論ノート　松井紀子
太宰治文学の欠陥
――太宰治とわが国の私小説作家との関係　池野俊幸
太宰治に於ける矛盾
――「人間失格」を中心に――　森真理子
作品『鳴海仙吉』論　梶真由美
石田波郷句集『惜命』論

——運命への愛——　小森直樹
密室の文学者—埴谷雄高　大館美喜子
椎名麟二「美しい女」論　上田正
「金閣寺」論　国松義治
倉橋由美子試論　堀江恵子
安岡章太郎論　片山紀子
『死の棘』の周辺
——島尾敏雄の軌跡——　福永晴美
安部公房——「砂の女」の周辺——　荘司久美子
高橋和巳試論　佐藤すま子
高橋和巳論　瀬戸修
近代詩成立の流れと谷川俊太郎の位置　武智美保
金井美恵子論
——「書く意志」の形態——　片岡佳子
阿部昭論
——「私小説」と「私」の変質——　加藤久美

〈国語学〉
古代活用語の形態音韻論的考察　細川博
色名の研究
——語彙と認識の発達——　笹田雅子
吾妻鏡における尊敬の助動詞「ル・ラル」についての考察　寺井利和
教行信証のシムの研究　山川稚子
川端康成文章の変遷
——ことばが弱る——　茅原佐代子
は・がの中国語代応表現　水田智子
京都のことば・生活・心の探求　大下雅子
「風流」についての考察
——現代における「風流」の意義とその可能性——　清水規子
「俗」という語の変遷　西村和子
形容動詞の出現と歴史的変遷　西山育子

昭和五十二年度修士論文題目

常世伝承について　沢田武男
隠遁歌人の心象
——西行・式子・良経の浄土教的感性　北澤宏泰